



## Little Diamonds

2

No.

2004年9月30日  
発行：浦和レッドダイヤモンドズ

## ジュニアユース今季初V!

埼玉新聞社旗争奪・第13回県ユース(U-15)選手権 (兼高円宮杯第16回全日本ユース選手権県予選)



今季初タイトルを手にして喜ぶジュニアユースのメンバー(9/26/決勝・狭山戦)

浦和レッズジュニアユースは、9月4日から26日まで行われていた埼玉新聞社旗争奪・第13回県ユース(U-15)選手権兼高円宮杯第16回全日本ユース(U-15)選手権県予選で2年連続5度目の優勝を果たした。今季の公式大会でレッズジュニアユースが優勝するのはこれが初めて。ジュニアユースチームは準優勝の狭山FCとともに10月末からの関東大会に進む。



右からのクロスで後半1得点2アシストの高橋峻輝(9/26/決勝・狭山戦)

勝利への執念燃やした準決勝  
優勝で関東大会に弾みつける

日本クラブユース選手権の県予選では大宮アルディージャに敗れ、さらに3位決定戦でもPK負けで4位。雪辱を期して臨んだ関東予選では一次リーグ1勝2敗で決勝トーナメントにすら進めなかった。今大会では優勝候補として下馬評にも名前が挙がらなかった。県内唯一のJ1クラブのチームとして、このままでは終われない。いいサッカーをするだけでは駄目だ。勝利への強い意欲が選手たちに芽生えた。

県ユース選手権は、今季最後の全国大会への道。1回戦、2回戦はともに快勝した。しかし関東予選出場をかけた準決勝(23日)の坂戸ディプロマツ戦では、試合開始3分、5分に連続失点。11分に池西佑樹のゴールで1点を返し、その後ペースはつ



準決勝の後半19分、PKを止めたGK富居大樹。1-3になっていたが関東出場は難しかっただろう(9/23/準決勝・坂戸戦)



苦戦の末、つかんだ勝利。喜びは大きい(9/23/準決勝・坂戸戦)

かんだものの同点には追いつけない。このまま終わるのかと思われた後半33分、高橋大輝の左クロスに山崎家光が合わせて延長に持ち込む。延長前半終了間際、FKを得たレッズは高橋大輝が直接シュート。やや遠目だったが、ボールは壁を越えてゴールに吸い込まれた。Vゴール。高橋に駆け寄りイレブン。競り合いに勝つ喜びを思い出した一戦だった。

関東進出は決めたが、何としても優勝が欲しい。決勝(26日)の相手、狭山ジュニアユースFCは2回戦で大宮アルディージャを破って勝ち上がったチーム。深めの守備でレッズにスペースを与えない。ならば、とレッズの選手たちは遠目からシュートを放つ。前半12分に岡田将知のミドルが決まった時点で勝敗はレッズに大きく傾き、反撃する狭山のボールを奪ってはサイドからチャンスを作った。終わってみれば5-0の圧勝。関東大会への大きな弾みになった(試合結果は2-3面に)。



キャプテンの三森翔。落ち着いた守備で相手の攻撃の芽を摘んだ(9/26/決勝・狭山戦)

アム第2グラウンドなどで行なわれ、上位5チームが全日本ユース選手権に進む。

## 優勝への意気込み感じた

監督：名取 篤

関東大会進出が決まっても、これで満足するな、と選手たちには言っていました。今年、優勝がありませんでしたから、僕より選手たちの方がこの大会にかける意気込みがあったと思います。準決勝で苦しんだ分、決勝では開き直ってできたこともあるでしょう。

自分たちでどうすればいいか考えながらできるようになってきたし、大会を通じてチームになってきたという気がします。今季は全国大会に行きませんから、何としても関東予選を勝ち抜きたいです。

関東大会は10月30日から11月14日まで、埼玉スタジ

# 目的意識を持って毎日の生活を



強化本部マネージャー(育成担当)  
村松 浩

レッズの下部組織を統括している村松です。現在はコースチームの監督を兼ねています。近年、U-13の選手には年に何回か、トップチームの公式戦で前座試合を行ってもらっています。大観衆の前で試合をすることによって、レッズの一員になったんだという自覚を持ってもらうと同時に、サポーターのみなさんに新しいレッズの家族を紹介するためでもあります。また今年からは、ジュニアユースから自動的に全員がユースに上がるというシステムがなくなりました。ユースは基本的に全員がプロを目指す選手という位置づけですから、中学3年になったら保護者の方も交えて話し合いをさせていただきます。

今年は、U-16の海外遠征先をヨーロッパから韓国に変えました。サッカー先進国に行って社交辞令的な試合を組んでもらうより、同等のレベルでしかもライバル心を持って激しく戦ってくるような国のチームの方が、有意義だからです。一方、ドイツ・シュツットガルトのユースチームに1年生を3人留学派遣しました。チームに入り込むことによって、一緒に鍛えてもらおうという目的です。

クラブでは、みなさんにプロ選手を目指してもらうために、いろいろとシステムを整備しています。選手のみならず、ぜひ高い目的意識を持って、毎日の練習や生活を過ごしていただきたいと思っています。

## Reds on Record in Jr.Youth

大会名はResult参照			D	D	A	D	D	A	E	E	E	E	A	E	E	F	F	A	F	G	G	G	G
試合日(結果)			8/7	8/7	8/7	8/8	8/8	8/22	8/25	8/25	8/26	8/26	8/27	8/27	9/4	9/5	9/5	9/19	9/19	9/20	9/23	9/26	
選手名			9-1	2-0	2-5	1-0	1-1	4-0	2-1	2-0	2-0	0-0	2-4	2-1	0-2	2-0	7-0	4-0	1-2	2-0	4-0	3-2	5-0
飯塚 大地	MF																						
岡田 将知	MF																						
岡本 翔平	FW																						
高垣 大樹	MF																						
高橋 大輝	DF																						
田中 貴大	DF																						
富居 大樹	GK																						
野口 修平	DF																						
橋口 弘斗	MF																						
早船康太郎	GK																						
久岡 真生	GK																						
平田祐次郎	DF																						
廣瀬 和桂	MF																						
福島 悠斗	FW																						
松本 昂大	DF																						
三森 翔	MF																						
矢部 雅明	MF																						
山崎 家光	MF																						
陸川 哲晃	DF																						
渡辺 登太	DF																						
長岡 彬	FW																						
池西 佑樹	MF																						
池田 涼司	DF																						
井田 龍応	DF																						
岩井 貴裕	DF																						
岩井 陸	DF																						
岸 幸太郎	FW																						
慶徳 優	GK																						
田 大志	DF																						
菅井 順平	DF																						
高橋 峻希	MF																						
高山 真人	GK																						
武富 尚紀	FW																						
田仲 智紀	MF																						
永田 拓也	DF																						
沼 大輔	MF																						
平野 又三	MF																						
山田 直輝	MF																						
藤田 圭介	DF																						
和田 祐樹	MF																						
池西 希	MF																						
石沢 哲也	MF																						
大里 康朗	DF																						
加瀬 光	DF																						
加藤 貴幸	MF																						
北見 亮太	DF																						
後藤 良平	GK																						
齋藤 博	MF																						
渋谷 将太	MF																						
高瀬 優孝	FW																						
高橋 秀行	DF																						
利根川良太	MF																						
根本 和毅	MF																						
長谷川 凌	DF																						
原 豊寛	GK																						
原口 元気	MF																						
簗本 啓太	FW																						
森田 健介	MF																						
山崎 大成	FW																						

# Action Result

## YOUTH

### A: U-16後期 TOP1リーグ

- (東農大浦和総合運動場、他)
- 8/7 2-5 (前半 1-2) 大宮アルディージャ
  - 8/8 2-3 (前半 2-3) 武南高
  - 8/14 3-1 市立浦和
  - 8/18 0-0 正智深谷高
  - 8/22 4-0 (前半 3-0) 大宮東高
  - 8/26 4-2 (前半 1-0) 浦和東高
  - 9/5 4-0 (前半 1-0) 埼玉栄高
- 8チーム中 2位

### B: 彩の国カップ第9回埼玉県選手権

- (熊谷スポーツ文化公園陸上競技場)
- 準々決勝
- 8/15 0-3 (前半 0-0) 埼玉 SC

### C: JFAプリンスリーグU-18関東順位決定戦

- (水戸ツインフィールド)
- 準々決勝
- 8/19 0-1 (前半 0-0) 流経大柏高
- 5・6位決定戦
- 8/21 1-2 (前半 0-1) 前橋育英高

## JUN DR YOUTH

公式戦では、第16回全日本ユース(U-15)選手権予選を兼ねた第13回東コース(U-15)選手権で優勝した(1面に詳報)。またナイキプレミアカップ埼玉県予選のクラブ予選を兼ねた、県クラブユースU-13大会の一次リーグ3試合を行い、G組2位で月13日からの決勝トーナメント進出を決めている。

### D: 狭山カップU-13

- (狭山新柏原G)
- 一次リーグ
- 8/7 9-1 (前半 6-1) 狭山市トレセン
  - 8/7 2-0 (前半 0-0) FC厚木
- 準決勝
- 8/8 1-0 (前半 0-0) 横浜栄
- 決勝
- 8/8 1-1 (前半 0-1) 横河電機
- 延長 0-0  
PK 5-6

### E: 前橋市長杯第2回 シンクlearフェスティバルU-14

- (前橋総合運動場、他)
- 一次リーグ
- 8/25 2-1 (前半 0-1) 名古屋 FC
  - 8/25 2-0 (前半 2-0) 高崎 FC
  - 8/26 2-0 (前半 1-0) ジェフ市原
- 1位リーグ
- 8/26 0-2 (前半 0-2) マリノス新子安
  - 8/27 1-0 (前半 0-0) 柏レイソル
  - 8/27 2-2 (前半 0-1) マリノス追浜
- 1位リーグ 3位



- F: 朝日新聞埼玉少年少女スポーツ杯  
第5回県クラブユースU-13**  
(富士見グラウンド、他)  
一次リーグG組
- 9/4 2-0(前半1-0)富士見ブリメイロ
  - 9/5 7-0(前半4-0)大宮西カリオカ
  - 9/19 1-2(前半0-0)大宮アルディージャ
- G組2位で決勝トーナメントへ

- G: 第13回埼玉新聞社旗争奪県ユース  
U-15選手権**  
(埼玉第3グラウンド、他)  
2回戦
- 9/19 2-0(前半1-0) HANFC 準々決勝
  - 9/20 4-0(前半1-0) 三郷 Jr 準決勝
  - 9/23 3-2(前半1-2) 坂戸ディプロマツツ (延長前半1-0) 決勝
  - 9/26 5-0(前半2-0) 狭山 FC 高円宮杯全日本ユースU-15選手権関東予選へ

**YOUTH  
U-16チームが韓国に遠征**

ユースのU-16チームは7月22日から27日まで、韓国の仁川(インチョン)に遠征した。遠征にはU-16の12人とU-15の4人が参加。設備の整った「大宇研修院」で生活し、韓国のU-18チームと練習試合2試合を行った。予定されていた3試合目は雨で中止となったが、海外の、強いチームとの戦いは選手たちにとって大きな経験になったようだ。

- <練習試合>
- 7/23 1-1(前半0-0) 白岩総合
  - 7/24 1-2(前半1-1) 利川



利川との試合に臨む選手たち(7月24日)

**YOUTH  
3人がドイツに短期留学**

ユースの金生谷仁、鈴木竜基、山田哲(いずれも高1)が、8月10日から26日まで、ドイツに短期留学した。ブッフバルト監督のコーディネートにより、シュツットガルトのU-16チームに合流し、約2週間、同チームの練習、試合(公式戦を除く)に参加して、メンタル面や体力・技術面を鍛えた。

**パスやトラップの正確さ学んだ**

MF 金生谷 仁  
行く前は、ドイツで自分の思ったことが通用するかどうか不安でした。もちろんコミュニケーションは取りにくいと思っていましたので、ジェスチャーでやるしかないな、と。



「実りあるドイツ留学だった」と語る(左から)鈴木、山田、金生谷の3選手



向こうの選手がとても優しくコミュニケーションを取ってくれたので、みんなの思っているプレーもわかるようになりました。

日本にない当たりの激しさや体の強さがありましたし、持久力もありました。パスのスピードはあまり日本と変わりませんでした。パスやトラップの正確さはあったと思います。帰ってきてから練習で生かすことができていると思います。プレスの速さやパスのスピード、正確さも良くなったような気がします。

生活は楽しかったです。ただ食事に肉が多くて飽きました。日本食がすごく食べたくなくなりました。

**ボールへの執着心強くなった**

FW 鈴木竜基  
ユースでやっていることやメンタル面がドイツでも通用するかどうか不安でした。向こうの選手と対等な立場で練習できることが自分にとって非常にプラスになると思いました。充実した毎日を送っていたので、長いとは感じませんでした。

行って良かったのは、戦う気持ちが強くなったことです。みんな、勝ちたいという気持ちやボールに対する執着心が強く、技術よりもそちらを感じました。体が大きいのでそこで負けないように頑張っていました。その中で自分の技術が発揮できないこともありましたが、一対一のとき日本の選手と間合いが違うのでやりやすかったです。

帰ってきて、前線から守備にいくときのスライディングなどが自然に出るようになりましたし、ボールへの執着心やゴールの大切さなどが強くなったと思います。

**至近距離からのシュートに対応**

GK 山田 哲  
シュツットガルトのU-17と試合したときには自分のプレーもできて、結構通用すると感じました。ただ向こうのGKは至近距離でのシュートに対してすごく強く、かなわないところがありました。自分が苦手としているところでもあったので、そこを重点的に練習できて良かったと思います。向こうのフィールドプレーヤーはテクニックよりスピードで抜いてきて、シュートもコースを狙うよりも思い切りドカン、というのが多かったですね。

言葉は、右とか左とか簡単な単語は覚えていったし、人の名前はすぐに覚えられたので、それで簡単なコーチングはできました。生活はそれほど困らななかったですが、食事が濃い味のものが多くてきつかったです。フィールドの2人は一緒にやっていたようですが、自分はGKだけで練習することが多く、言葉が通じないところで1人でやったことで成長できたんじゃないかと思っています。

帰ってきて最初の練習で、至近距離からのシュートにうまく体を当てていくことができました。

**Reds on Record in Youth**

大会名はResult参照		A	A	B	C	C	A	A	A
試合日(結果)		8/7	8/8	8/15	8/19	8/21	8/22	8/26	9/9
選手名		2-5	2-3	0-3	0-1	1-2	4-0	4-2	4-0
3 年	大山 俊輔 MF								
	川嶋 正之 DF								
	小寺 潤 MF								
	沢口 泉 FW								
	小尾 優也 DF								
	杉尾 一憲 GK								
	中村 祐也 MF								
	西川 優大 FW								
	星野 崇史 DF								
	細井 勇貴 DF								
2 年	武藤 勝利 MF								
	市川雄太郎 FW								
	宇賀神友弥 MF								
	大橋 基史 GK								
	小池 純輝 FW								
	小松 裕志 MF								
	小松 靖和 DF								
	堤 俊輔 DF								
	西澤代志也 MF								
	野島 康宏 DF								
1 年	増田 孝輔 MF								
	森 慎太郎 MF								
	山田 純輝 DF								
	吉田 周太 DF								
	渡部 竜二 MF								
	萩尾 勇真 MF								
	一ノ瀬 建 DF								
	セルヒオ エスクデロ FW								1
	蛭原 弘貴 FW						2	3	
	大池 昂之 GK								
1 年	尾崎 綾 GK								
	金生谷 仁 MF								
	蟹澤 直人 GK								
	川原 拓郎 DF								
	小林 優平 DF						1		
	佐藤 謙介 MF							1	
	鈴木 竜基 FW								2
	田中 宏育 MF	1	1						
	中山 透 MF								
	広瀬 祐太 MF		1					1	
村上 裕磨 DF									
村松 勇太 MF	1								
山田 哲 GK									

**Action Schedule**

**YOUTH**

**Jユースカップ第12回Jリーグユース選手権**

- 予選リーグEグループ
- 10月17日 横浜M(12:00・戸塚G)
- 24日 C大阪(13:00・農大浦和)
- 31日 甲府(13:00・農大浦和)
- 11月7日 横浜M(14:00・埼玉スタ3)
- 14日 C大阪(14:00・南津守)
- 21日 甲府(14:00・蕨崎中央)

7グループの各1位チーム、および2位チームの上位5チームが決勝トーナメントに進む。なお決勝トーナメントにはJクラブ以外から4チームが加わる。

**決勝トーナメント**

- 1回戦 12月12日 ・各地
- 2回戦 19日 ・小机競技場、長居第2陸上競技場
- 準決勝 23日 ・長居第2陸上競技場
- 決勝 26日 ・長居スタジアム

**Jr.YOUTH**

**第14回県クラブユース(U-15)大会**

- 43チームによるトーナメント戦
- 10月2日~11月20日・さいたま市八王子公園サッカー場、他

**高円宮杯全日本ユース(U-15)選手権関東大会**

- 予選リーグ(4チーム×4ブロック)
- 上位2チームによる決勝トーナメント
- 10月30日~11月14日・山梨県富士河口湖サッカー場、他
- 上位5チームが全日本選手権へ

**朝日新聞埼玉少年少女スポーツ杯**

**第5回県クラブユース(U-13)大会**

- 決勝トーナメント(16チーム)
- 11月13日~11月23日 会場未定
- 上位4チームが第7回県ユース(U-13)大会へ

# 埼玉国体・サッカー少年の部 3位！

## ユースの5人が貢献、広島ユースに「雪辱」

9月10日から14日まで埼玉スタジアムなどで開催された、第59回国民体育大会のサッカー少年男子の部で、レッズユースの選手5人を含む埼玉県代表が3位となった。

埼玉県代表は、福岡（10日）、広島（11日）、鹿児島（12日）と強豪を次々と下してベスト4に進出。準決勝の千葉県代表戦（13日）でも2点を先制したがその後追いつかれ、延長後半Vゴール負けした。翌14日の3位決定戦では、石川県代表と点の取り合いの末、4-3で制した。優勝は静岡県。

埼玉県代表にはレッズユースから、DF星野崇史（3年）、堤俊輔（2年）、MF大山俊輔（3年）、西澤代志也（2年）、GK大橋基史（2年）ら5人が参加しており、3位入賞に大きな力となった。また2回戦で当たった広島県代表チームはレギュラーの多くがサンフレッチェ広島ユースの選手で構成されており、夏の日本クラブユース選手権準決勝で惜敗した雪辱を果たした形になった。

レッズユースの今年最後の大会は10月17日（日）に予選リーグの初戦を迎える第12回JユースカップJリーグユース選手権。今季初の全国タイトルをめざす。



### 左サイドバック

星野 崇史

国体の代表に選ばれたのは初めて、とてもうれしかったし、チームメートとも仲良くなって良かったです。初戦は緊張して思うようなプレーができなかった

んですが、試合を重ねていくうちに徐々に自分が思ったことができるようになりました。2回戦の広島はクラブユースで負けたサンフレッチェが主体のチームだったので、そこに勝てたのが一番印象に残っています。

国体の活動を通じて、攻め上られるタイミングや上がらなければいけないときが、わかるようになりました。Jユースカップがこれから最後の大会ですが、優勝目指して頑張ります。



### センターバック

堤 俊輔

3年生中心のチームの中で、2年で出してもらって良い経験になりました。広島代表に勝てたことが一番うれしいです。できれば優勝したかったのですが、3位

という結果もうれしいです。

国体の活動の中で、クリアするところはクリアするとか、DFとして自分に足りないものを身に付けようと意識していました。サテライトの練習や試合にも参加させてもらっていますが、激しいプレッシャーの中でも落ち着いてプレーできるように心がけています。Jユースカップでも広島と当たって勝ちたいです。



### 攻撃的MF

西澤 代志也

2回戦の広島戦に勝てたのが、3位という結果につながったと思います。準決勝の千葉戦は2点先制したので、前半を無失点に抑えればいけると思ったんですが、追いつかれて最後は力負けでした。目標にしていた優勝には届きませんでした。開催地のチームとして絶対に3位になろうと前の晩、みんなで話し合っていたのでいい準備ができたと思います。

国体の活動を通じて身に染みしたのは、ボールをもらってから考えていたんでは取られてしまうということ、それと「止める」「蹴る」という当たり前のことができないと、上のレベルでは通用しないということです。それを練習でも意識していきます。学んだことをJユースカップや来年に生かして、トップに上がるためにつなげたいと思います。



### ゴールキーパー

大橋 基史

出場したのは最後の3位決定戦だけでした。かなり緊張しましたが、もう失うものはなかったので思い切りやろうかな、と考えていました。最初のプレーがう

まくいったので、リズムに乗れたと思います。本当は2回戦の広島戦に出たかったです。クラブユースの準決勝ではそれまで一番いい動きができて、途中まではいい感じで止めていたん

### 試合結果

1回戦（10日・埼玉スタ）

埼玉	2	1-0 1-0	0	福岡
----	---	------------	---	----

2回戦（11日・埼玉スタ第2）

埼玉	3	0-0 3-2	2	広島
----	---	------------	---	----

準々決勝（12日・埼玉スタ第2）

埼玉	1	1-0 0-0	0	鹿児島
----	---	------------	---	-----

準決勝（13日・埼玉スタ第2）

埼玉	2	2-1 0-1 延長 0-0 0-1	3	千葉
----	---	--------------------------------	---	----

3位決定戦（14日・埼玉スタ第2）

埼玉	4	2-1 2-2	3	石川
----	---	------------	---	----

ですが、最後に連係ミスで取られてしまいましたから。

国体の活動を通じて、自分の力を発揮するために、いかに良い準備をするか、ということ学びました。また、いつもと違うコーチということでストレスもたまったんですが、練習を練習のままで終わらせるんじゃないかと、試合に近づけるようにいつもイメージしていたので、それが3位決定戦に出せたと思います。



### 攻撃的MF・ 守備的MF

大山 俊輔

負けた千葉戦や、3回戦の鹿児島戦など、苦しい試合もありましたが、最後に勝ちで終わられて良かったです。広島にはクラブユースの借り

を返したつもりです（注・決勝点は大山）。知らない仲間たちが集まって一緒にプレーすることで、うまくコミュニケーションを取りながらやっていた。それほどキャプテンを意識してはいなかったです。準決勝の夜は、2試合続けて負けるのは嫌だから3位決定戦で絶対に勝とうとみんなで話し合いました。去年の国体では初戦敗退で悔しかったので、3位という結果はまずまずだと思っています。

サテライトに出してもらって、高いレベルでやっている分、ふだんのプレーではいい意味で余裕を持ってできています。